

## 今日のトピック インドの経済・市場動向（2017年9月）

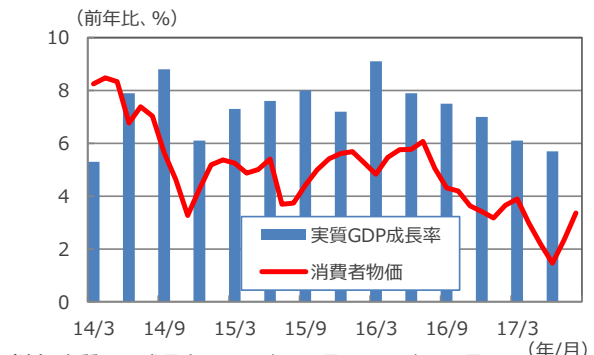
# 景気は持ち直しへ、株式、通貨は底堅い展開

### ポイント1 4-6月期GDPは減速

#### 7月のGST導入の一時的影響

- 2017年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.7%と、市場予想（ブルームバーグ集計、同+6.5%）を下回り、1-3月期の同+6.1%から伸び率が鈍化しました。
- 物品サービス税（GST）導入を7月に控え、納税負担の関係で企業が商品調達を抑制したことから受注、生産が減少し、消費が伸び悩んだことが要因です。
- ただし、GST導入による混乱は一時的と考えられ、8月の製造業PMIの急反発が示すように、今後在庫回復が進み、景気は7-9月期以降持ち直すと見られます。

【実質GDP成長率と消費者物価】



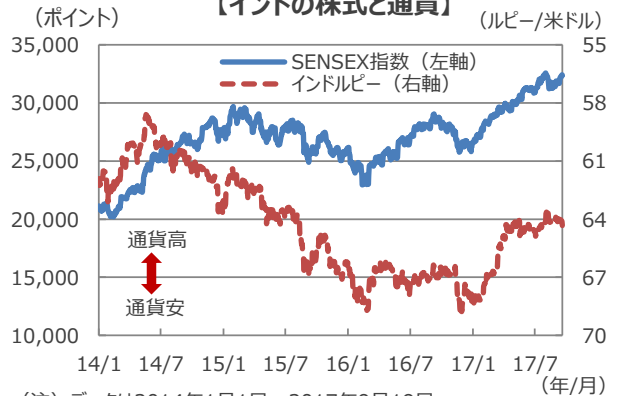
(注) 実質GDP成長率は2014年1-3月～2017年4-6月。  
消費者物価は2014年3月～2017年8月。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 消費者物価は上昇率拡大

#### 金融政策は据え置きの見込み

- インドの8月の消費者物価指数は前年同月比+3.4%と、7月（同+2.4%）から上昇率が拡大しました。約4割のウェイトを占める食品がプラスに転じたことが主因で、6月を底に反転しています。
- 足元のインフレはインド準備銀行（中央銀行、RBI）の物価目標（+4%）を下回っているものの、RBIは公務員住宅手当引き上げなどの影響から年度後半にインフレが加速すると見ているため、金融政策を据え置くと考えられます。

【インドの株式と通貨】



(注) データは2014年1月1日～2017年9月19日。  
(ルピー/米ドル) は逆目盛。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 景気は持ち直しへ、株式、通貨は底堅い展開

- インド経済はGST導入の影響から一時的に足踏みしましたが、GSTを巡る混乱は早晩収束し、景気は持ち直すと考えられます。主要株価指数SENSEXは足元で過去最高値圏にあります。中長期的にはGST導入による経済の効率化から企業の利益成長加速が期待され、インド株式は堅調な展開が見込まれます。
- インドルピーは、経済の高成長や改革期待を背景にインドへの資金流入が続いていることから、対ドルで約2年ぶりの高値圏で推移しています。今後も資金流入の継続から、インドルピーは底堅い動きとなりそうです。

ここも  
チェック! 2017年9月 8日 アジア経済と株式市場の見通し  
2017年8月31日 アジア通貨の動向（2017年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。